

2026年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（前期）

試験科目名	専門試験（ 行動科学 ）
出題の意図	<p>問1 行動科学において社会的規範に関連する概念の多面的理解度を評価する。</p> <p>問2 行動科学の方法論に関する知識を、分散分析の理解度を通じて評価する。</p> <p>問3 行動科学の研究・事例に関する基本的な知識の理解度を評価する。</p> <p>問4 行動科学の統計・手法に関する基本的な知識の理解度を評価する。</p>

2026 年度
 北海道大学大学院文學院修士課程入学試験問題（前期）
 （専門試験） 行動科学 全 2 枚のうち 1 枚目

この試験では、試験問題 2 枚、解答用紙 4 枚を配付する。

以下の問 1 から問 4 までの全ての間に答えなさい。解答は、問ごとに別の解答用紙を用い、冒頭に問番号を記入しなさい。

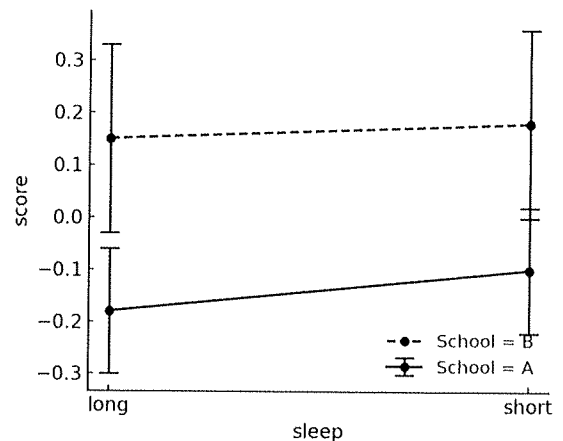
問 1 「社会的公正 (social justice)」については、人文・社会科学の様々な分野で研究対象とされてきており、また、その定義も様々である。

- (1) 社会的公正はなぜ研究対象として重要なのだろうか。あなたが知っている分野での「社会的公正」の定義や扱われ方を説明した上で、それに基づいて論じなさい。
- (2) 「社会的公正」のように学術的な専門分野間で定義や扱われ方が異なる問題を、実証的な分析対象とすることにはどのようなメリット・デメリットがあるだろうか。上記 (1) での定義や扱われ方をふまえて論じなさい。

問 2 あなたは高校生の睡眠時間が学業成績に与える影響を検討したいと考えた。データを収集する前には、睡眠時間が多いほど成績が高くなるという仮説を立て、地方と都市部の高校で調査を行った。睡眠時間と、学業成績として全国共通模試の得点を回答者に自己申告してもらった。いずれの高校からも、それぞれ 50 人の回答を得た。以下は、その分析結果である（注：問題作成者が生成した架空のデータを使った分析である）。

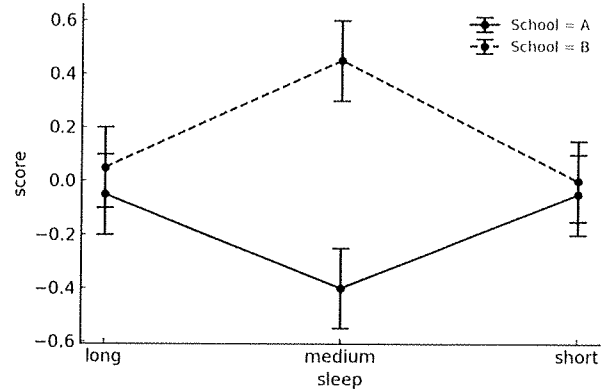
- (1) まずあなたは、2 つの高校を合わせた睡眠時間の中央値で、参加者を睡眠時間が長い群と短い群に分けた。続いて、模試の得点に対して、睡眠時間（長い/短い）×学校（都市部=A/地方=B）の二元配置分散分析を行なった。以下は、その結果である。図中のエラーバーは標準誤差である。この結果からどのようなパターンが見られるか説明せよ。

要因	<i>df</i>	<i>SS</i>	<i>MS</i>	<i>F</i>	<i>p</i>
睡眠時間	1	0.255	0.255	1.53	.219
学校	1	2.325	2.325	13.96	< .001
睡眠×学校	1	0.007	0.007	0.04	.835
残差	96	15.991	0.167		



(2) 次にあなたは、睡眠時間を 2 群に分けるのではなく、33 パーセンタイルと 66 パーセンタイルで「長い/中程度/短い」の 3 群に分けることを思いついた。そして、模試の得点に対して、睡眠時間（長い/中程度/短い）×学校（都市部=A/地方=B）の二元配置分散分析を行なった。(1) の分析結果と比較しながら結果を説明せよ。

要因	<i>df</i>	<i>SS</i>	<i>MS</i>	<i>F</i>	<i>p</i>
睡眠時間	2	0.09	0.05	0.33	.718
学校	1	2.46	2.46	17.66	<.001
睡眠×学校	2	2.92	1.46	10.47	<.001
残差	94	13.10	0.14		



(3) 睡眠時間によって参加者をどのように分けるかは、研究者であるあなたが恣意的に決定したものである。以上を踏まえて、あなたは今回の調査結果を、論文の中でどのように報告するべきだろうか。あなたの考えを論じなさい。

問 3 次の 3 つの語句について、それぞれ代表的な研究や現実的な事例などを挙げつつ、簡潔に説明しなさい。

- a) 自己奉仕バイアス (Self-serving bias)
- b) アンカリング効果 (Anchoring effect)
- c) オペラント条件づけ (Operant conditioning)

問 4 行動科学の方法に関する次の 2 つの問に簡潔に解答しなさい。

- a) 無作為配置 (Random assignment) と無作為抽出 (Random sampling) の違いについて説明しなさい。
- b) 標本調査において、標本サイズを増やすことのメリットとデメリットを説明しなさい。

以上